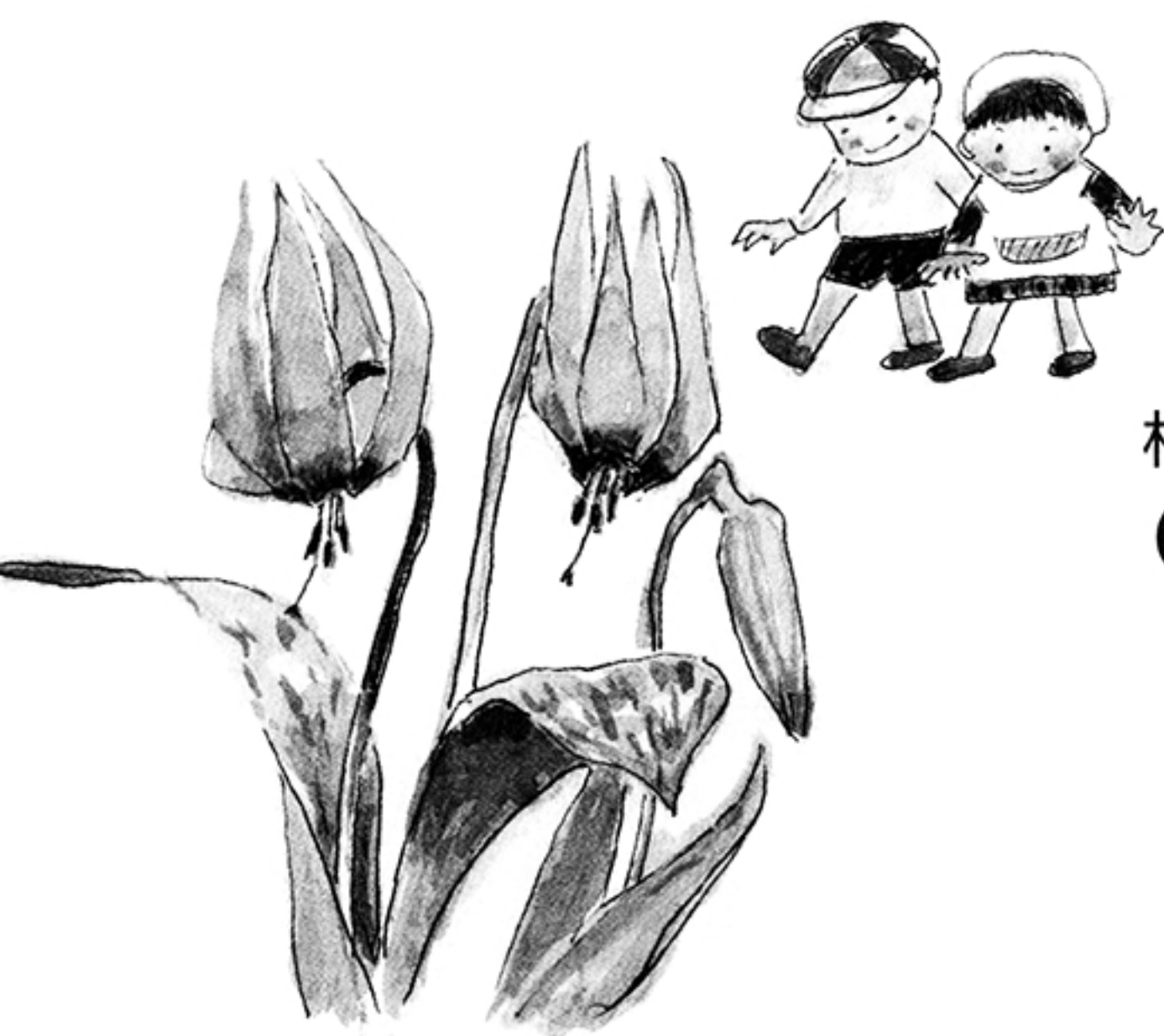


聴く

新潟いのちの電話だより

2016.3

No.128



相談電話

(025) 288-4343

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

ベランダ猫（４）

橘 玲子

3回にわたりベランダ猫、パンツの話をしてきました。今回で終わりとなります。

さて母猫パンツの住まいから追い出された子猫は、秋も深まる頃からベランダで泊まることが多くなりました。名前はチビです。私の心配は、チビだけで冬を越せるかどうかでした。

この年は新潟ではめずらしく、12月の初めに40センチの大雪となりました。景色の違いにチビは落ち着きません。夜になり心配になった私がベランダに出てみると、チビは雪の中、パンツの住まいの方角を眺めています。「チビ」と呼ぶと、すごいスピードでベランダにかけてきました。その夜急速、段ボールの家をつくりました。本当はパンツの所に行きたかったのでしょう。しかしその夜から、ベランダがチビのすみかになりました。

ところが日が長くなり始めた頃、真夜中に猫が威嚇する強烈な鳴き声が聞こえてきました。その正体は首輪をつけたオス猫で、体も大きく、ボスの風格です。昼には母親のパンツまでも来て、どちらからもチビは逃げ回ります。別々に来るボスやパンツを察知する能力は鋭く、気配を感じて逃げ出します。ただ爆睡していると気づかないこともあるようで、大好きな寝箱をひっくり返して逃げた跡がありました。猫の生存競争も大変です。敵が現れなければ穏やかで、幸せそうにベランダで眠るか、私を呼んで遊びます。私も幸せです。

そんな9月のある日、一通の手紙が管理組合から届きました。猫に餌をやらないこと、住人とトラブルを起こさないようにという警告でした。チビとの別れが突然来たことを私は悟りました。

臨床心理学者から一言。喪失体験は突然にやってきます。失った対象は、別のものに置き換えられないただ一つのものであります。人災や災害で誰にも起こりうる出来事です。絵本「くまとやまねこ」（河出書房新社）を手にとってみてください。

（新潟青陵大学 大学院 教授）

ある日の相談室より

電話をかけてくる相談者の第一声は、実にいろいろです。

遠慮がちに「ちょっと聴いてほしいのですが…」

泣いて少し興奮しながら「混乱してしまって…何から話したらいいのか…」

ほっとしたような声で「ああ、やっとつながりました…」

暗く沈んだ声で「もう何もかもいやになってしまいました…」

ある日の電話は、突然、こんな問いかけで始まりました。

「…やっぱり私が、一番悪いのでしょうか？」

電話の向こうの相談者は、静かな口調で話し続けました。…結婚して三十年余り、家事と育児に明け暮れ、夫と義父母には逆らわず仕えてきた。世間的には裕福で恵まれた家庭生活に見える。自分の人生は、物心ついてから、ずっと苦勞の連続だったように思う。…子どもの一人に障害があることがわかり、その子どもの働く場所を探している。親として、子どもの障害を受け入れるのに時間がかかった。今は子どもの幸せのためだと思い、いろんな所で相談し、頭を下げている。でもなかなかうまくいかない…。

「頭の下げ方が足りないからだ」「あなたにも、何か問題があるのでは？」

相談者は、懸命にやっているにもかかわらず、労われることもなく、周囲の人々の心ない言葉に深く傷ついていました。それが、第一声の問いかけであり、問いかけの言葉の意味がわかるまでには、長い時間がかかりました。

相談者の第一声には、その人の思いが凝縮されていることがあります。聴き漏らさないようにしたいと、心に刻んだ一本の電話でした。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

感情と表情と言葉と

青野 勇

東京は世田谷のボロ市で、何となくひかれ、わからないまま古い張り子のお面を買い求めました。後日、京都の嵯峨面であることを知りました。これが集めだしたキッカケです。現在はひと部屋がお面に覆われてしまい、家族に不気味がられています。

集めているだけでは物足りなくなり、自分で作りだしました。最初は「狂言や能面の写真集」を見たりしましたが、マネでは思ったものが作れません。表情というのは複雑で微妙ですから、どの感情を表わそうとしているのかが、分からなくなってしまうのです。難しいですね。でも、思ったようにいかないのも楽しみです。

以前カウンセリングの指導を受けている中で「ペルソナ(仮面)」についてやり取りをしたことを思い出します。また最近の指導からは、感情を表わす言葉を多く持たない自分に気づきました。感情を伝える手段として言葉や表情は大切です。未熟さを痛感しています。

皆さんはいかがでしょう。楽しい、嬉しい、苦しい、悲しい、怒り…。感情を表わす言葉を書き出していくと、どのくらい書き出すことができますか。

(臨床心理士)



毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。

電話番号 0120-738-556

お知らせ

新年度に向けて

2月12日（金）、理事会と評議員会が開催され、2016年度の事業計画および予算が承認されました。4月からの新年度の準備が整いました。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2016年 ボランティア相談員認定式

3月19日（土）33期生9名の認定式と1期から32期までの認定更新式が行われました。またこの日、長年継続している相談員に理事長から感謝状が贈られました。5年継続10名、10年継続7名、20年継続1名、25年継続3名、30年継続1名となります。

電話相談員は毎年、誓約書を提出し、認定を受けることで、活動を継続しています。心も新たに、365日24時間体制の相談をつなげていきたいと思えます。



新潟いのちの電話利用状況

2015年1月1日から12月31日までの1年間の利用状況です。

相談受信数 18,762件

（うち、自殺傾向のあるものは
1,793件 9.6%）

1日あたりの平均は、51件

全国いのちの電話と協力しながら毎月10日に実施している、自殺予防フリーダイヤルは、

相談受信数 646件

（うち、自殺傾向のあるものは
127件 19.7%）

孤独、心の病、家族の問題、職場の対人関係など、たくさんの相談が寄せられています。生きる望みをなくし、死を考える方の相談も多いです。1人でも多くの方々が、これらの問題を理解し、心を寄せてくださることを願っています。

2016年3月25日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp/>

子どもたちに学ぼう

大人のひとたちよ
子どもたちを見てみよう
あの幼いものたちの目には
すべてが新鮮なのだ

大人が 悩みや心配のあまり
見えなくなってしまったものに
子どもたちは気づかせてくれる

大人のひとたちよ
子どもたちの目で
この人生をあらためて
見てみようではないか

わたしたちには失われてしまった
未来への夢を
子どもたちはたしかにもっている

子どもたちの笑いに学ぼう
ごくごく小さなものが
うれしくてたまらない
あの喜ぶさまに

そして 人びとには
愛があることを
信じて 疑わない
あの 子どもたちのところに